

2020年度(令和2年度)学校評価自己評価表

城北中学校区	校番 2	福山市立城北中学校
最終更新日	2020年(令和2年)4月1日	

I 福山市

<p>ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。</p> <p>ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。</p>

II 中学校区

<p>前年度学校関係者評価の主な内容</p> <p>学校関係者評価報告書は全項目「十分満足できる」と評価された。中学校校区内で連携を深め、共通の取組で成果をあげている。各校の目標が達成できていないものについては取組の進捗状況を細かく把握し課題克服に向けてPDCAサイクルに則り実践する。</p>	<p>児童生徒の現状</p> <p>全国学力・学習状況調査の結果、小学校は県平均を概ね上回り、中学校は県平均程度となっている。また、校区共通で取り組んだことで、「あいさつ」、「地域行事参加」などの意欲は向上してきている。睡眠時間、学習時間の確保が課題である。</p>	<p>育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)</p> <p>知識・技能 思考力・判断力・表現力 主体的に学ぶ力 他者とかわる力 社会貢献力 自己形成力</p> <p>めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)</p> <p>自ら考え、判断し、行動する児童・生徒</p> <p>中学校区として統一した取組等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校区合同研修における、授業研究及び教科等部会の取組 ・ICTを活用した授業実践及び協議・交流の取組 ・基本的な生活習慣や家庭学習の目安を示した校区スタンダードの取組 ・合同行事や乗り入れ授業、「総合的な学習の時間」交流会の取組
---	---	---

III 自校

<p>ミッション</p> <p>福山市のリーダー校として、学びの変革を推進し郷土福山を愛する生徒を育て、地域・保護者から信頼される校区・学校にする。また、基礎的学力の定着や自ら考え学ぶ生徒を育てるとともに、心の育成を図り、城北中生徒としての品格と誇りを身につけ、「城北中で学んで良かった」と評価される学校をめざす。</p>
<p>学校教育目標</p> <p>生徒の主体性を育み、社会に貢献する生徒の育成</p>
<p>現状</p> <p><児童生徒></p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間や行事、ボランティアを中心に地域貢献を意識した活動を通して、生徒が主体的に学ぶ姿が多く見られた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校が育成を目指す資質・能力のうち、「自ら課題を見出し解決しようとする力」や「自分の考えを相手が納得できるよう分かりやすく伝える力」に課題がある。 <p><授業></p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケートにおいて、授業力に関わる質問項目の肯定的評価の平均値が80%以上であった教科が33教科中(3学年合計)31教科であった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国学力学習状況調査の結果から、生徒の学びに向かう意欲・態度に課題があった。

<p>新学習指導要領 資質・能力の柱</p> <p>育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)</p> <p>めざす子ども像</p>	<p>知識・技能</p> <p>知識・技能 知</p> <p>学習したことを自ら語れる。</p>	<p>思考力・判断力・表現力</p> <p>思考力・判断力・表現力 思</p> <p>根拠を持って、正しい判断をしている。よりよい解決のため、いろいろな見方・考え方をしている。自分の考えを相手が分かりやすいように伝えられる。</p>	<p>学びに向かう力・人間性等</p>			
	<p>主体的に学ぶ力 主</p> <p>自ら課題を見出し、解決しようとしている。</p>	<p>他者とかわる力 他</p> <p>他者と協力して、課題を解決しようとしている。他者との関わりを通して、自らの考えを深めたり変えたりしている。</p>	<p>社会貢献力 社</p> <p>他者との共存の中で、集団の利益になることを考え実践しようとしている。</p>	<p>自己形成力 自</p> <p>前向きにチャレンジし、より自律・自立した人間になるようとしている。自らに自信を持っている。</p>		
<p>研究</p> <p>めざす授業の姿</p>	<p>教科等</p> <p>国語・社会・数学・理科・英語</p> <p>主題・内容等</p> <p>主体的な学びの創造～自ら考え学ぶ生徒の育成を目指した指導法の工夫～</p>	<p>知</p> <p>自らが学んだ知識や技能について、文章でまとめる習慣が身に付けられている。</p> <p>思</p> <p>課題解決に向け、自らの考えや課題解決のための方法を見出すための時間や手立てが講じられている。</p> <p>主</p> <p>関心・意欲を持って課題を見出し、課題解決の方法を考えられるような教材(題材)が提供できている。</p> <p>他</p> <p>グループやペア等の活動を通して、協働的に課題解決に臨んだり、他者の考えをもとに自らの考えを広げたり深めたりする場面が設定されている。</p> <p>社</p> <p>地域の課題に自ら目を向け、自分ができることはないかを考え行動化させている。</p> <p>自</p> <p>振り返りでは、学習過程における成長を評価するとともに、更なる追求課題を見いださせている。</p>				

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立城北中学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)			
							□指標に係る取組状況	70%以上評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況	70%以上評価	達成評価	総合評価
1	自ら考え学ぶ生徒(主体性)の育成	★	新規	主体的に学ぶ力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○授業において、主体的に学ぶ力の向上を目的に、全職員で課題を作成し、全校教科学習「学ビタ」を年5回(国語・社会・数学・理科・英語)実施する。 ○『主体的・対話的・深い学び』を意識した指導法の工夫を交流し、日々の指導の改善を目指す教科会の実施を定期的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒アンケートにおいて、主体的に学ぶ力に係わる質問項目「自ら課題を見だし、解決しようとする力」の肯定的評価の割合をすべて80%以上にする。 ○生徒アンケートの教科毎の授業力に関わる質問の肯定的評価を全教科80%以上にする。 								
			継続	確かな学力の定着	<ul style="list-style-type: none"> ○4月に行う学力の伸びを把握する調査(全学年対象)及び全国学力・学習状況調査(3学年対象)において、個別の課題について分析し、校内研修・教科会において授業改善について方向性を明確にして授業実践を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○全国学力学習状況調査正答率において、全教科全国平均以上にする。 								
			★	新規	自律的に行動できる生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒会を中心とした、生徒主体の学校運営の実施。(自治活動、縦割り集団を軸とした学校行事、学校給食等) ○一斉の部活指導日を設け、生徒・教職員共に部活動の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒アンケートにおいて、「学校行事について、自分の役割を自覚し、主体的に行動しています」の項目の肯定的評価を95%以上にする。 							
1	教職員の資質・能力の向上		新	専門教科の授業力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○ICT等を活用した、生徒を学びに夢中にさせる授業を行 	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員アンケートにおいて、「仕 								

	上		規	うためのスキルアップ研修を行う。 ○個々の教職員の取組を共有する場を設定する。	事に意義とやりがい(意欲)を感じている」の項目の肯定的評価を95%以上にする。 ○教職員アンケートにおいて、「『子どもが学ぶ』とはどういうことか、他の教職員と話したり考えたりしている」の項目の肯定的評価を95%以上にする。													
			新規	各教科・道徳・総合・特活の授業力の向上	○それぞれ年に1回研究授業を行い、実践の交流・協議を全教職員で行う。 ○それぞれの分掌担当が、校内研修を行い知識・スキルの向上を図っていく。													
			新規	生徒指導の3機能(自己決定・自己存在感・共感的人間関係)を見据えた、生徒指導力の向上	○校内研修において、個々の生徒に寄り添う生徒指導をめざし、SCなどの講師による研修、教職員同士によるロールプレイの研修、生徒指導部主催による研修等を定期的に実施する。													
1	地域に貢献する学校		継続	本校の取組や活動の地域への発信	○学校だより、学年だより、保健だより、HP、メール配信及び行事等において、本校の取組みや活動に関わる情報発信を積極的に行う。	○保護者アンケートにおいて、「城北へ行かせてよかった」の項目の肯定的評価を95%以上にする。												
		★	継続	総合的な学習の時間を軸とした、地域理解・社会貢献学習の充実	○総合的な学習の時間の前期の単元において、全学年で「地域理解・社会貢献学習」を行い、地域の方々と共に学習を深める場を設定する。	○生徒アンケートにおいて、「地域貢献」に係わる質問項目の肯定的評価を90%以上にする。												
			継続	地域行事やボランティア活動への積極的な参加	○学校内外を問わず、様々な地域行事やボランティア活動を企画・周知し、個々が主体的に参加できる場の充実を図る。	○地域行事やボランティア活動の参加者の割合を85%以上にする。												

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。